

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2634100328		
法人名	株式会社サンガジャパン西日本支社		
事業所名	なぎつじグループホーム		
所在地	京都市山科区封シ川町43-2		
自己評価作成日	令和2年12月28日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	令和3年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度はコロナウイルスの影響による面会、外出制限のある中、室内で楽しく過ごせること、下肢筋力低下予防を積極的に実施。また、自己選択、自己決定できるような支援を実施しました。(おやつバイキング、レクで何をしたいのか等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該施設は、地域密着型特定施設を併設する複合施設で、施設の1階を1ユニットのグループホームとし、2階・3階を特定施設としています。柳辻駅からほど近く、近隣に山科川が流れる住宅地の一角に位置しています。平成31年4月1日に、サービス付き高齢者住宅と小規模多機能型居宅介護の事業から、地域密着型特定施設とグループホームに業態変更しており、比較的新しい施設になっています。法人の理念(感動介護憲章)を軸に、行動指針をハンドブックにまとめ、理念に則したケアの提供ができるよう、人材育成に力を入れています。また、年度毎に作成される事業計画も入念に作りこまれ、職員毎の目標を定めるなど、法人と事業所・個人が一体感を持って事業運営ができる環境になっています。コロナ禍の影響により、地域との交流や外出を自粛してはいるものの、建物の中でできる取り組みとして、食事レクリエーションに力を入れ、厨房で調理される食事を計画的に変更し、ユニットでの行事食や職員と一緒におやつ作りを行うなど、今できることを考え、現在の環境下でも一人ひとりが楽しんで生活できるよう工夫しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、全体会議などに理念憲章と職員クレドを唱和している。	法人の「感動介護憲章」や「職員クレド(行動指針)」を冊子化し、全職員に配布すると共に、朝礼時に憲章やクレドの唱和をしています。また、毎年度、事業計画を作成し、基本方針・年度目標・重点目標と方策を定め、これに沿ったケアの実践になるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナウイルスの感染防止の為、外出制限があり、できていない。	自治会の回覧板等を活用し、地域情報の収集や発信を行っています。地域包括が主催した「あんしんサポート講座」にも登壇するなど、地域に向けて情報発信に努めています。地域との関わりを大切にしているものの、コロナ禍の影響により、現在は活動を自粛していますが、自治会への寄付等で地域貢献をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や居宅訪問時にアナウンスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルス感染予防の為、話し合いの場も設けることが中々できず、電話にて意見を聞いた。感染予防についての意見をもらい、手指消毒、密を避ける等に努めた。	2ヶ月毎の開催をしていますが、現在は感染予防対策として、区役所の確認を取った上で、書面開催としています。開催時には従来通り、出席者に書面での開催案内を送付し、開催にあたっての意見等を電話で聴き取るようにしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者サポート勧修等に月に1回は訪問し情報交換し、役立っている。	運営推進会議の議事録は、区役所の窓口へ手渡しを行うことで、顔の見える関係を継続しています。地域包括から、入居生活が困難と思われる方の相談を受けることもあります。事業者連絡会や研修なども、コロナ禍の影響により延期されている事から、再開が待たれるところです。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の開催。虐待や身体拘束のチェックシートを配布、集計し議論している。研修実施している。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、年間研修計画に基づく2回の研修と、3ヶ月毎の委員会活動を実施しています。研修参加者は、研修参加報告書を提出し、上長がコメントをするなど、研修が効果的になるよう取り組んでいます。また、委員会活動では、自己点検シートによる職員の認識チェックを実施し、不適切なケアへの認識を深める取り組みになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束委員会委員会の開催。 年間研修計画に組み込まれ実施した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者様1名。成年後見人の種類等についての説明会の実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更があれば、都度説明を行い、同意を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、必ず現状報告を行っている。その時に家族の要望や意見を聞いている。また、電話連絡時にも、同じ事を行っている。	コロナ禍の影響により、これまでのような家族とのコミュニケーションが取れない中、管理者から7～10日毎に電話連絡をするようにしており、できる限り意見や要望を聴き取るようにしています。現在は、窓越しで家族との面会も行っている事から、その際にも想いを聴き取るようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員満足度調査(ES調査)の実施。集計後に原因追及、改善策を報告する場を設けている。	毎月実施するグループホーム会議において、職員からは忌憚のない意見が出され、運営に活かされていることが議事録から確認できました。また、地元在住の職員が多いことから、地域情報を運営に活かせるよう努めています。年に一度、職員満足度調査を実施し、集計結果に基づく事業所評価から改善点を明確にし、良好な組織運営になるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、必要に応じ面談の実施。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス研修。OJT研修がある。 勤続年数、役職に応じた研修の受講。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内ではあるが、管理者がGH部会に参加し、情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、後にアセスメントモニタリングの実施し、GH会議等で検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にしっかりと家族と話し合い、要望を言いやすいようにオープンエスチョンで質問するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に現在の生活を知り、何が必要で、何が不必要なのか初期面談時、アセスメント時に見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることを日常生活の中で一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係が疎遠にならないように、家族様にも買い物等の協力を依頼し、定期的な面会ができるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思いを聴き取り、可能な限り実現しようとした。今年度はコロナウイルスの影響で馴染みの場所や、行きたいと思う場所に行くことができなかった。	毎年恒例のお墓参りに行く方や、毎週自宅に戻る方など、本人の想いを大切にす取り組みを行ってききましたが、コロナ禍の影響により、一時中断しています。そのような中でも、車外には出ないよう配慮しつつ、近隣へのドライブ外出を実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話やレクリエーション等の実施。円滑に交流できるように、職員が介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去による利用終了の為、ご家族との関係性はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人、家族の意向を聴き取りプランに反映させている。	入居時の聴き取りと、介護計画見直しの際の再アセスメントで、思いや意向の確認をしています。日々の関わりから得られた新しい情報は、口頭での伝達や申し送りノートで共有されています。	何気ない日々の関わりで得られた情報を活かした声掛けや関わりなどを、意図的に行うためにも、一人ひとりの思いなどの情報を簡潔に整理し、共有できる仕組みが必要と思われる。センター方式の書式等を参考にされてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にしっかりと聴き取りを行うようにして、馴染みのものや馴染みの人などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント。モニタリング等も参考にカンファレンスを行い、状況把握に努め、情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ、カンファレンスを開催。家族への理解と協力を得て本人の望む暮らしに役立てている。	毎月のグループホーム会議の中で、カンファレンスを実施すると共に、現場職員によるモニタリングが毎月実施されています。これをもとに、短期目標の期間(6ヶ月)毎に計画作成担当者がモニタリングを行い、都度、医師・薬局へ意見照会を行ったうえで、担当者会議を経て、計画の見直しが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有はできているが、記録には残せていない事が多く、職員間での連絡ノートへは記入できていたり、できていなかったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要とあれば、家族へ連絡し、サービスの追加や変更について了解を得てから十するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響もあり。地域資源の活用ができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療による月2回程健康管理。 体調不良時には緊急対応してもらえる。	従来からのかかりつけ医の継続をされる方もおられ、家族協力のもとで受診できるよう支援しています。状態変化に伴い、往診が必要になった際には、協力医療機関への変更を提案しています。受診の際には、職員が付き添う場合もあります。緊急時には、職員が迷わず対応ができるよう、対応手順を貼り出す事で、周知しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は訪問診療時にDrに現状態を報告している。受診が必要な場合は看護師が連絡調整している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	1か月に2回程、近隣の病院を訪問している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化、看取りに関する説明等をおこなっている。	「重度化対応に係る指針」「看取り介護に関する指針」を作成し、入居時に説明を行い、同意及び意向の確認をしています。また、終末期に入られる際には、改めて家族の意向を確認するようにしています。	年間研修計画に基づき、看取り介護の研修を実施しています。更に一歩進めた、家族へのグリーフケアの取り組みや、看取り後の職員の精神的ケアも鑑みた研修体制を整えられることが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1回、キャリアパス研修にて実施。 実践力が身につけているかは不明。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練、設備点検を実施している。	コロナ禍の影響により、消防署の協力は無いものの、年に2回の消防訓練を実施しています。また水害想定での2階への避難訓練も実施しています。有事に備え、飲食品も併設の特定施設を合わせた、入居者3日分プラス α 分を備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	キャリアパス研修の項目にある。実施している。	年間研修計画に基づき、プライバシー保護の研修を実施しています。居室でのおむつ交換時や、トイレでの排泄時も、本人が恥ずかしい思いをしないよう配慮したケアを実施しています。声掛け等で不適切な事があった際には、管理者からOJTを兼ねた指導が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナウイルスの影響で外出等できなかったが、行きたいところや、食べたいもの、やりたいことなどを会話から導き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のライフスタイルに合わせ、無理強いないように、している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で洋服を選んで頂く、入浴後に髪をとき、整容して頂くような声掛けをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委託会社に依頼している。月何回かはおやつレクとしてホットケーキ等を作っている。	食事は、全て併設の特定施設の分と一緒に、1階の厨房で調理され、一人ずつ配膳された食事が運ばれてきます。食を楽しんでもらうための工夫として、食事レクリエーションを数多く取り入れ、毎月のようにユニットで、行事食を職員と一緒に作っています。また、食事だけでなく、おやつを職員と一緒に作るなど、できることを活かした取り組みを行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委託会社の栄養管理が献立作成している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア加算をとっているため、食後の口腔ケアを実施。実施後は口の中をしっかりとみる事としている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時排泄誘導、おむつ交換を行っている。	トイレでの座位を保てない方以外は、日中のおむつ使用はなく、夜間は本人の希望を聴き、誘導をしたり、おむつを使用したりするなど臨機応変な対応をしています。一人ひとりの排泄パターンを把握し、適宜声掛けによる誘導も行っています。自立の方も、排泄の確認をそれとなく行い、記録しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認や、軽い運動を実施している。排泄を促すようなヨーグルトを毎朝提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事前に入浴の日であることを伝え心づもりをしていくようにしている。	週2回の入浴を基本とし、2人介助が必要な方も、個浴にて対応できるようにしています。体調により、入浴ができない方も、足浴や清拭を行い、清潔を保てるようにしています。個浴ができなくなった際には、機械浴での対応もできる環境にあります。また、季節毎に、ゆず湯や菖蒲湯なども楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自己決定してもらっている。また傾眠が見られた場合は入床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を確認して目的を把握する様になっている。また増薬、減薬の把握にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に、玄関先に出るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出支援はほとんど、できていない。	現在はコロナ禍のため、外出を控えるようにしていますが、できるだけ季節を感じてもらったり、気分転換をはかったりするため、敷地内での外気浴や日光浴を行っています。また、事業所の車で、近隣にドライブに出かけることも始めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望もあり、金銭や貴重品を持つことはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を職員支援により直筆でメッセージを書いてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱をまねかないよう、余計な物はおかないようにしている。また季節感のあるものを展示すようにしている。	リビングには、食卓テーブルだけでなく、ソファを設置し、思い思いの場所で過ごせるよう工夫されています。定期的な換気により、感染防止対策を徹底し、テレビやBGMのボリュームなどにも配慮して、居心地よく過ごせる環境になるよう努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にソファをおき、寛げるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのあるものの搬入をお願いしている。	入居時に、馴染みの物の持ち込みをお願いしており、タンスや仏壇、位牌などを持ち込まれている方もいます。またお気に入りの写真やぬいぐるみを飾り、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯場やふろ場等にわかりやすいように張り紙をはり目印をつけている		